

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事 例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血（濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本）を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前（8月12日）のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状 況

- (1) 輸血された輸血用製剤について
 - ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
 - ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み（3本は使用済み）。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み（3本は医療機関供給済み）。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。
- (2) 検体検査の状況
 - ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
 - ・ 供血者81人中76人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった。
- (3) 患者検体の調査
 - ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。
- (4) 担当医の見解
 - ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。
- (5) 併用薬等
 - ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者5人のフォローアップを引き続き行う。

輸血用血液製剤で細菌感染が疑われた事例（１１月２７日報告）について

1 経緯等

平成１８年１１月２７日、日本赤十字社から輸血（血小板濃厚液）による細菌感染疑いの症例の報告があった。

2 事 例

２０歳代の男性。原疾患は血液疾患等。

平成１８年１１月１７日１５時４０分、輸血（新鮮凍結血漿６単位）を開始し、２２時１５分まで実施。その後異常なく、同日２３時３５分、輸血（血小板濃厚液１０単位１本）を実施。１１月１８日１時１５分、３９℃の発熱、２時以降ショック状態となり、４時５３分に死亡が確認された。

医療機関における輸血後の患者血液の培養検査で、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Bacillus cereus* が検出された。

主治医は、経過より何らかの汚染が考えられるとしている。

3 状 況

（１）輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された１本の原料血漿は確保済み。

（２）検体検査の状況

- ・ 日本赤十字社において、同一採血番号の血漿１本について、細菌培養試験を実施したが、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Bacillus cereus* は検出されなかった。
- ・ 当該製剤は採血２日目の照射濃厚血小板。

（３）担当医の見解

- ・ 経緯より、何らかの汚染が考えられる。患者死亡と当該製剤との関連性は不明。

4 今後の対応、その他

（１）[※] 検体検査及び患者検体の調査を実施し、細菌感染の有無及び輸血用血液製剤との因果関係を明らかにする。

平成18年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成18年9月14日報告分から18年12月27日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤42件である。輸血用血液製剤の内訳は、
 - (1) B型肝炎報告事例： 14
 - (2) C型肝炎報告事例： 13
 - (3) HIV感染報告例： 0
 - (4) その他の感染症報告例： 15
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は11例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は2例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は2例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は11例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は5例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例である。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は1例。
 - (2) CMV感染症例は1例である。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者 性別 年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位 数	献血者再 献血※	同一献血者製 剤確保※	同一献血者製剤 使用※	感染症 等転帰	転帰	献血者発病及の場合 の献血者保存検体 (抗原、抗体、NAT) (投与時点)	献血者発病及の場合の供 血者の検査値
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																						
供血者陽性事例																						
3-06157	A-06000149	2008/10/24	2008/11/7	人赤血球濃厚液 (追加分) 人赤血球濃厚液 洗浄人赤血球浮遊液 人血小坂濃厚液	男 70	血液腫瘍	B型肝炎	01/08 (追加分) 03/08 03/03-10 03/03	HBsAg(-) HBsAb(-) (01/07)	HBsAg(-) HBsAb(-) (04/07)	陽性(輸血後)	保存検体1本に ついてHBV- NAT(+) (追加分) 保存検体25本に ついてHBV- NAT実施予定。		・献血者はA- 06000116(2008.9.14未完了報 告)の対策製剤のうち、感染 症報告に基づく調査でHAI陽 性が判明した献血者の過去 の献血血液の研究納品と調査 室に基づく情報提供に対して の報告事例。 ・患者と献血者ウイルス相同 性を比較するため、当該保存 検体にてPCRを実施したが増 幅しなかったため、患者検体 と同一献血者検体にて PreS/S領域を含むP領域前 半部の1550bpの塩基配列を 比較したところ、33箇所にお いて相違が見られた。患者検 体と同一献血者検体のHBVウ イルスはGenotype adで塩基 配列からSubtype adと推定さ れた。また、cor promoter/PreC領域223bpに てPre Core変異の有無を判 定したところ、患者検体は nt.1896が変異したPre Core Mutantであった。一方、同一 献血者検体はnt.1896の変異 はなかった。 検査結果を受けて、「当該輸 血製剤と患者保存検体の HBV塩基配列が一致せず、 因果関係はないと思われる。 しかし患者が急性B型肝炎を 発症しているのは確実であ り、当該製剤以外の輸血製剤 にHBVが混入していた可能性 があるため、この患者にそれ までに使用した血液製剤の個 別NAT検査を実施する必要 があると考え。」との担当医 の見解が得られ、03年3月20 日～10月2日に輸血された25 本が被疑薬として追加され た。	2単位 (追加分) 2単位 40単位 10単位	(追加分) 22/25	1本の原料血漿 を製造し、使用 済み。 (追加分) 25本の原料血 漿、8本の新鮮 凍結血漿を製 造。	(追加分) 原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て 医療機関へ供給 済み。	中等度	回復		
3-06167	A-06000183	2008/11/18	2008/11/30	人赤血球濃厚液(放射線照射) 新鮮凍結人血漿	女 40	産科出血	B型肝炎	06/06 06/06	HBsAg(-) HBV-DNA(-) (06/06) HBsAg(-) HBsAb(-) IgM- HBcAb(+) HBsAb(-) HBV-DNA(-) (06/06)	HBV-DNA(+) (06/10) HBsAg(+) HBsAb(-) IgM- HBcAb(+) (06/11) HBV-DNA(+) (06/11)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保存検体10本に ついて 9本HBV-NAT(-) 1本HBV-NAT(+)		患者検体とHBV-DNA陽性保 存検体(以下、「献血者検 体」としてPreS/S領域を含むP 領域前半部の1550bpの塩基 配列の比較を試みたが、献 血者検体のウイルス量が検 出限界であったためPCRで増 幅されず比較することができな かった。 Genotype及びSubtypeを決定 するために、患者検体と献血 者検体とでS領域193bpの塩 基配列を決定したところ両検 体のHBVウイルスはともに Genotype Bで塩基配列から Subtype adと推定された。ま た、同領域における両検体の 塩基配列は一致した。 Core Promoter/Pre-Core領 域の変異を確認するために、 患者検体と献血者検体とで同 領域を含む233bpの塩基配列 を決定したところ、両検体とも に野生型であった。	8単位 12単位	5/10 (保存検体 HBV- NAT(+))と なった献血 者は再献 血なし。	10本の原料血 漿、2本の新鮮 凍結血漿、3本 の赤血球MAPを 製造。原料血漿 は4本確保済み。 新鮮凍結血 漿は全て確保済 み。	原料血漿は6本 使用済み。赤血 球MAPは全て医 療機関へ供給済 み。 *陽性となった 輸血用血液と同一 献血者検体の製 剤として、1本の 原料血漿、1本の 赤血球MAPがあり、 原料血漿は、赤血 球MAPは医療機 関へ供給済みで あり、赤血球 MAPを輸血され た患者は尿疾患 にて死亡。	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血数	同一供血者製剤使用数	同一供血者製剤使用率	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保腎抗体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査法
陽転事例																							
3-06143	A-06000132	2006/9/27	2006/10/11	人赤血球濃厚液(放射線照射)新鮮凍結人血漿	女	30	消化器疾患	B型肝炎	06/02 06/02	HBsAg(-) (04/12) HBV-DNA(-) (08/02)	HBsAg(-) (06/06) HBV-DNA(+) (06/09) HBsAb(-) (06/09) HBcAb(-) (06/09) HBV-DNA(+) (06/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保腎抗体6本についてHBV-NAT(-)			6単位 6単位	4/6			重篤	未回復	6本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿、3本の赤血球MAPを製造。新鮮凍結血漿は全て確保済み。	原料血漿は全て使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。
3-06147	A-06000138	2006/10/2	2006/10/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)人血小板濃厚液(放射線照射)	男	80	血液腫瘍	B型肝炎	06/06-09 06/06-07	HBsAg(-) (05/12) HBsAb(-) (06/08) HBsAg(-) (06/10) HBcAb(-) (06/08) HBV-DNA(-) (06/08)	HBV-DNA(-) (06/07) HBV-DNA(-) (06/09) HBsAg(-) (06/09) HBsAb(-) (06/09) HBcAb(-) (06/09) HBV-DNA(+) (06/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保腎抗体18本についてHBV-NAT(-) <追加> 1本NAT(-)	人血清アルブミン (06/08)	担当医が疑念1本追加し、合計17本。	20単位 70単位	4/17			中等度	不明	13本の原料血漿、7本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。 <追加> 1本の原料血漿を製造し、確保済み。	
3-06153	A-06000143	2006/10/13	2006/10/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)人血小板濃厚液	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	03/04 03/05 03/05	HBsAg(-) (03/01) HBsAg(-) (03/03) HBsAg(-) (03/03) HBV-DNA(-) (03/03)	HBV-DNA(+) (06/10) HBsAg(+) (06/10) HBsAb(-) (06/10) HBcAb(-) (06/10) HBV-DNA(+) (06/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保腎抗体3本についてHBV-NAT(-)			2単位 2単位 10単位	3/3 (1人はHBsAb(+)) かつ HBsAb(-) で、当該献血時においても同様であった)	4本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	重篤	不明		
3-06154	A-06000146	2006/10/18	2006/11/1	人血小板濃厚液(放射線照射)人血小板濃厚液HLA(放射線照射)人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	60	血液腫瘍	B型肝炎	05/01 05/01 05/01	HBsAg(-) (05/01)	HBsAg(+) (06/08) HBV-DNA(-) (06/10) HBsAg(-) (06/10) HBsAb(-) (06/10) HBcAb(-) (06/10) HBV-DNA(-) (06/10)	陽性(輸血後)	保腎抗体13本についてHBV-NAT(-)		輸血血液13本の実献血者数は12人である。	90単位 45単位 2単位	10/12 (3人はHBsAb(+)) うち1人は当該献血ではHBsAb(-))	13本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。	軽微	未回復		
3-06155	A-06000147	2006/10/19	2006/11/1	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	40	子宮内腫瘍、子宮筋腫	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) (06/08)	HBsAg(-) (06/10) HBV-DNA(-) (06/10) HBsAg(-) (06/10) HBsAb(-) (06/10) HBcAb(-) (06/10) HBV-DNA(-) (06/10)	陽性(輸血後)	保腎抗体4本についてHBV-NAT(-)	加齢人血漿たん白(06/09、250mL)フィブリノゲン配合剤(06/09、1袋)		6単位	0/4			軽微	未回復	3本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は全て確保済み。	
3-06172	A-06000188	2006/12/1	2006/12/13	人血小板濃厚液人血小板濃厚液(放射線照射)人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	10	骨髄腫	B型肝炎	06/03-09 06/07-09 06/04-09 06/04	HBsAg(-) (06/02) HBsAg(-) (06/04) HBsAb(-) (06/04) HBV-DNA(-) (06/04)	HBsAg(+) (06/10) HBsAb(-) (06/10) HBcAb(-) (06/10) HBV-DNA(+) (06/10)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保腎抗体13本についてHBV-NAT(-)			50単位 20単位 10単位 2単位	3/13 (うち1人はHBsAb(+))、 HBsAb(+))	12本の原料血漿を製造し、11本確保済み。	原料血漿1本は確保済み。	重篤	未回復		

日付番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者個別NAT	献血者個別NAT	供用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血率	同一献血者製剤確保率	同一献血者製剤使用率	感染症等転帰	転帰	供血者免過及の場合の供血者受替後体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者免過及の場合の供血者の検査値
3-08176	A-05000192	2006/12/8	2006/12/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)新鮮凍結人血漿	男	9M	循環器疾患	B型肝炎	06/09 06/09	HBsAg(-) (06/08) HBsAb(-) (06/11) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/08) HBV-DNA(+) (06/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) (06/11) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/09) HBV-DNA(+) (06/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体6本についてHBV-NAT(-)		母はHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)、HBsAb(-)であり、母子感染は否定され、輸血による感染と考えられる。	4単位 3単位	2/8	3本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿、3本の赤血球MAPを製造。原料血漿は全て確保済み。	新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	不明		
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																							
3-06146	A-06000135	2006/9/29	2006/10/13	人血小坂濃厚液(放射線照射)人血小坂濃厚液(放射線照射)人赤血球濃厚液	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	06/05-07 06/05-07 06/07	HBsAg(-) (06/02)	HBsAg(-) HBsAb(-) (06/08) HBV-DNA(-) (06/09) HBV-DNA(-) (06/07) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/10)	陰性(輸血後)	保管検体18本についてHBV-NAT(-)			130単位 40単位 2単位 4単位	11/18(1名はHBcAb(+)) HBsAb(+)	18本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は全て確保済み。	中等度	軽快			
3-05168	A-06000184	2006/11/17	2006/11/30	白血球除去人赤血球濃厚液(放射線照射)新鮮凍結人血漿	男	3M	消化器疾患	B型肝炎	06/06-10 06/06-10	-	HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) (06/08) HBsAg(-) HBsAb(+) HBsAb(-) HBeAb(+) HBeAb(-) IgM-HBeAb(-) HBV-DNA(-) (06/11) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAb(+) HBV-DNA(-) (06/11)	陰性(輸血後)	保管検体11本についてHBV-NAT(-)	※被疑薬にされていないが併用あり: 人免疫グロブリン(ガンマーグロブリン) (06/09) 人血アルブミン(06/09-10)	生体肝移植施行(06/11)患者の父親(1人)についてHBsAg(-)、HBsAb(-)、HBsAg(-)、HBsAb(-)、IgM-HBeAb(-)、HBV-DNA(-) (06/11)	5/11 (うち1人はHBsAb(+))	4本の原料血漿、8本の新鮮凍結血漿、8本の赤血球MAPを製造。原料血漿は3本確保済み。新鮮凍結血漿は2本確保済み。	原料血漿は1本使用済み。新鮮凍結血漿は7本、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
陽転未確認事例																							
3-06179	A-06000195	2006/12/8	2006/12/22	新鮮凍結人血漿	女	30	消化器疾患	B型肝炎	06/07	HBsAg(-) HBsAb(-) (06/07)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAb(-) IgM-HBeAb(-) HBV-DNA(+) (06/12)	HBV関連検査実施予定	保管検体2本についてHBV-NAT実施予定。	乾燥凍結人アンチトロンビンⅢ乾燥スルホ化人免疫グロブリン(06/07)		10単位	2/2	なし		軽微	未回復		
3-06180	A-06000196	2006/12/11	2006/12/22	新鮮凍結人血漿	男	60	血液腫瘍	B型肝炎	06/06	HBsAg(-) (06/06)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAb(+) IgM-HBeAb(-) HBV-DNA(+) (06/11)	HBV関連検査実施予定	保管検体7本についてHBV-NAT実施予定。			11単位	5/7	4本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿、7本の赤血球MAPを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	新鮮凍結血漿、赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	軽微	未回復		
3-06184	A-06000200	2006/12/14	2006/12/27	新鮮凍結人血漿人赤血球濃厚液	男	50	消化器疾患	B型肝炎	06/05 06/05	HBsAg(-) (05/12) HBsAg(-) (06/04) HBsAb(-) HBsAb(-) HBeAb(-) (06/05)	HBV-DNA(+) (06/07) HBV-DNA(-) (06/09) HBV-DNA(-) (06/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAb(+) IgM-HBeAb(+) HBsAb(+) (06/11)	調査なし	同時期に輸血された輸血血液の保管検体11本についてHBV-NAT実施予定。	・「血液製剤の調製履歴について」に基づく症例。医療機関への情報提供に伴い実施した保管検体個別NATで、HBV-DNA(-)が確認された。 当該輸血血液(新鮮凍結血漿)と同一供血者等製剤より、1本の原料血漿、1本の赤血球MAPを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。赤血球MAPは滅菌廃棄済み。 ・同時期に輸血された血液11本についても調査	8単位 16単位	4/11	調査中		中等度	軽快	当該献血: HBV関連検査適合、保管検体個別HBV-NAT(-) (05/09)	陽転献血: HBsAb(-)、保管検体個別HBV-NAT(-) (06/09)	

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	献血者識別NAT	献血者識別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者経過及の場合の献血者検査結果(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者経過及の場合の献血者の検査結果
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																							
陽転事例																							
3-08149	A-06000139	2006/10/10	2006/10/18	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小核濃厚液(放射線照射) 人血小核濃厚液HLA(放射線照射)	女	60	血液腫瘍	C型肝炎	06/04 06/04-09 06/04-09 06/09	HCV-Ab(-) (06/04) HCV-RNA(-) (06/04)	HCV-Ab(-) (06/07) HCV-Ab(+) (08/08) HCV-RNA(-) (06/04) HCV-Ab(-) (08/08) HCV-RNA(-) (06/04) HCV-RNA(+) (08/08)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体44本についてHCV-NAT(-)	※輸血薬に添付されているが併用あり。 ポリリンクトリニール処理人免疫グロブリン(06/07) 乾燥ポリリンクトリニール処理人免疫グロブリン(06/08)		10単位 26単位 225単位 25単位	17/44	43本の原料血漿、8本の新鮮凍結血漿、4本の赤血球MAP、1本の洗浄赤血球を製造。原料血漿は40本確保済み。新鮮凍結血漿は4本確保済み。	原料血漿は3本使用済み。新鮮凍結血漿は2本、赤血球MAP、洗浄赤血球は全て医療機関へ供給済み。	中等度	未回復		
3-08150	A-06000140	2006/10/10	2006/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	60	消化器疾患	C型肝炎	06/01	HCV-Ab(-) (05/08)	HCV-Ab(-) (08/02) HCV-Ab(+) (06/08) HCV-RNA(+) (06/09) HCV-Ab(+) (08/10) HCV-RNA(-) (08/10)	陽性(輸血後)	保管検体2本についてHCV-NAT(-)			2単位	0/2	2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		軽微	未回復		
3-08156	A-06000148	2006/10/24	2006/11/7	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液疾患	C型肝炎	06/06-09 06/08	HCV-Ab(-) (06/05) HCV-Ab(-) (09/09) HCV-Ab(+) (06/08) HCV-RNA(-) (06/05) HCV-RNA(-) (06/05)	HCV-Ab(-) (08/09) HCV-Ab(±) (09/09) HCV-Ab(+) (06/08) HCV-RNA(-) (08/10) HCV-RNA(-) (05/10)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体17本についてHCV-NAT(-)			23単位 3単位	1/17	17本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は全て確保済み。		中等度	未回復		
3-08152	A-06000142	2006/10/12	2006/10/28	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	70	消化器疾患、血液疾患	C型肝炎	05/12	HCV-Ab(-) (05/12)	HCV-Ab(-) (05/12) HCV-Ab(+) (08/02) HCV-RNA(+) (06/03) HCV-RNA(-) (08/08)	検体なし	保管検体2本についてHCV-NAT(-)			4単位	1/2	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	重篤	軽快		
3-08159	A-06000168	2006/10/26	2006/11/6	人赤血球濃厚液	男	70	消化器腫瘍	C型肝炎	06/06	HCV-Ab(-) (06/05) HCV-Ab(-) (06/10) HCV-RNA(-) (06/06)	HCV-Ab(+) (06/05) HCV-RNA(+) (06/05) HCV-Ab(+) (06/10) HCV-Ab(+) (06/10) HCV-RNA(+) (06/10)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本についてHCV-NAT(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿、新鮮凍結血漿は全て確保済み。		重篤	軽快		
3-08173	A-06000189	2006/12/1	2006/12/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)	女	90	呼吸器疾患	C型肝炎	06/07	HCV-Ab(-) (06/05)	HCV-Ab(-) (08/08) HCV-Ab(+) (08/10) HCV-RNA(+) (06/10) HCV-RNA(+) (08/11)	陽性(輸血後)	保管検体2本についてHCV-NAT(-)			4単位	1/2	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿は確保済み。		中等度	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	免疫者識別 NAT	献血者識別 NAT	併用血液製剤 等	備考	使用単位 数	献血者 献血	同一献血者製 剤確保	同一献血者製剤 使用	感染症 等軽微	経過	献血者免過及の場合 の献血者検査 (抗原、抗体、NAT) (投与時点)	献血者免過及の場合の供 血者の検査
輸血後NATで陰性又は 輸血前後で陽性																							
3-06145	A-06000134	2006/9/28	2006/10/11	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	男	50	消化器疾患	C型肝炎	06/03 06/04	HCV-Ab(-) (06/02) HCV-Ab(-) HCV-RNA(-) (06/03)	HCV-Ab(-) (06/04) HCV-Ab(-) HCV-RNA(-) (06/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体5本に ついてHCV- NAT(-)			2単位 40単位	8/9	1本の原料血 漿、1本の新鮮 凍結血漿を製 造。原料血漿、 新鮮凍結血漿 は確保済み。		軽微	回復		
3-06148	A-06000138	2006/10/4	2006/10/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	80	循環器疾患	C型肝炎	05/07	HCV-Ab(-) (04/11) HCV-Ab EIA(-) PHA(-) HCV-RNA(-) (05/07)	HCVコアAg(-) (06/08) HCV-RNA(-) (06/09) HCV-Ab EIA(+) PHA(+) HCV-RNA(-) (06/09)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体3本に ついてHCV- NAT(-)	担当医より、死亡と本剤との 関連性なしとのコメントあり。		6単位	2/3	3本の原料血漿 を製造。	原料血漿は全て 使用済み。	軽微	死亡(肺炎 にて死亡)		
3-06151	A-06000141	2006/10/11	2006/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	泌尿器疾患	C型肝炎	06/05	HCV-Ab(-) (06/04) HCV-RNA(+) (06/05)	HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/09) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (06/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体5本に ついてHCV- NAT(-)			3単位	0/5	3本の原料血 漿、4本の新鮮 凍結血漿を製 造。原料血漿は 確保済み。新鮮 凍結血漿は全て 確保済み。		中等度	軽快		
3-06163	A-06000171	2006/11/1	2006/11/13	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	80	循環器疾患	C型肝炎	06/09 06/09 06/09	HCV-Ab(-) (06/08) HCV-Ab EIA(-) PHA(-) HCV-RNA(-) (06/09)	HCV-Ab(-) (06/10) HCV-Ab EIA(+) PHA(-) HCV-RNA(-) (06/11)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体15本に ついてHCV- NAT(-)			20単位 14単位 20単位	8/15	11本の原料血 漿、1本の新鮮 凍結血漿、3本 の赤血球MAPを 製造。原料血漿 は9本確保済 み、新鮮凍結血 漿1本は確保済 み。	原料血漿は2本 球MAPは全て医 療機関へ供給済 み。	軽微	不明		
3-06177	A-06000193	2006/12/6	2006/12/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	60	消化器疾患、消化器 腫瘍	C型肝炎	06/02	HCV-Ab(-) (06/02) HCV-RNA(-) (06/02)	HCV-Ab(-) (06/11) HCV-Ab(-) HCV-RNA(-) (06/12)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体5本に ついてHCV- NAT(-)			10単位	調査中	5本の原料血 漿、3本の新鮮 凍結血漿を製 造。	原料血漿は全て 使用済み。新鮮 凍結血漿は全て 医療機関へ供給 済み。	軽微	回復		
陽転未確認事例																							
3-06181	A-06000197	2006/12/11	2006/12/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	40	熱傷	C型肝炎	06/06	HCV-Ab I/L7 Dpt(-) CLIA法(-) (06/06)	HCV-Ab CLIA法(+) HCVe-Ag(-) (06/11) HCV-Ab I/L7 Dpt(-) CLIA法(+) (06/11)	HCV関連検査 実施予定	保管検体3本に ついてHCV- NAT実施予定。			3単位	0/3	調査中		重篤	不明		
3-06183	A-06000199	2006/12/11	2006/12/25	人赤血球濃厚液 人血小板濃厚液(放射線照射)	女	80	血液腫瘍	C型肝炎	06/07-11 06/07-10	HCV-Ab(-) (06/07)	HCV-Ab(-) (06/10) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) HCVe-Ag(+) (06/12)	HCV関連検査 実施予定	保管検体21本に ついてHCV- NAT実施予定。			30単位 60単位	5/21	調査中		中等度	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者側NAT	献血者側NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者免過及の場合の献血者側検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者免過及の場合の献血者側検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																							
日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	受血者検査	保管検体検査	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者免過及の場合の献血者側検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者免過及の場合の献血者側検査(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-06158	A-06000150	2006/10/25	2006/11/7	人赤血球濃厚液(放射線照射)(採血13日目)	男	90	消化器疾患	細菌感染	06/10	—	院内にて患者血培養法: Enterococcus sp.および Staphylococcus aureus(MRSA)検出	—	・当該製剤のセグメントチューブで細菌同定試験を実施: Enterococcus sp.および S.aureus(MRSA)は検出されず ・同一献血番号の血漿1本で革菌試験実施:「適合」			2単位	—	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		重篤	軽快		
3-06150	A-06000187	2006/10/27	2006/11/8	人赤血球濃厚液(放射線照射)(採血18日目)	男	60	血液腫瘍	細菌感染	06/10	—	—	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一献血番号の血漿1本で革菌試験実施:「適合」			2単位	—	2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		軽微	回復		
3-06161	A-06000168	2006/10/27	2006/11/8	人赤血球濃厚液(放射線照射)(採血12日目)	女	80	消化器腫瘍	細菌感染	06/10	—	・院内にて患者血培養法:グラム陽性球菌(Enterococcus faecalis)検出 ・院内にて輸血前の患者血培養法:陰性	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	・当該製剤(2本)のセグメントチューブで細菌同定試験を実施: Enterococcus faecalis検出されず ・同一献血番号の血漿2本で革菌試験実施:「適合」		検査結果より、担当医から本症例の副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考えるとのコメントあり。	4単位	—	2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		重篤	回復		
3-06162	A-06000170	2006/10/31	2006/11/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)(採血11日目)	男	70	泌尿器腫瘍	細菌感染	06/10	—	院内にて患者血培養法:グラム陽性球菌(Serratia marcescens)および Acinetobacter baumannii)検出	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一献血番号の血漿2本で革菌試験実施:「適合」		検査結果より、担当医から本症例の感染症と輸血血液との因果関係なしと考えるとのコメントあり。	2単位	—	2本の原料血漿を製造し、全て確保済み。		重篤	回復 (患者は原疾患にて死亡。死亡と輸血との関連性なしとの担当医の見解)		
3-06164	A-06000180	2006/11/9	2006/11/22	人赤血球濃厚液(採血3日目)	女	60	血液腫瘍	細菌感染	06/11	—	院内にて患者血培養法:陰性	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一献血番号の血漿1本で革菌試験実施:「適合」			10単位	—	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		中等度	回復		
3-06165	A-06000181	2006/11/10	2006/11/22	人赤血球濃厚液(1本の赤血球MAPを分割投与:採血14、18日目)	女	3	血液腫瘍	細菌感染	06/10	—	・院内実施の血液バッグ(小児用に分割された製剤)の細菌検査(POR法)にて Mycobacterium goodiiを同定 ・患者血液の細菌検査(POR法)は陰性。現在までのところ、副作用症状はない	—	同一献血番号の血漿1本で革菌試験実施予定。			2単位	—	調査中		中等度	未回復		
3-06166	A-06000182	2006/11/10	2006/11/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)(採血3日目)	女	50	血液疾患	細菌感染	06/11	—	院内にて患者血培養法:陰性	非溶血性副作用関連検査 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	同一献血番号の血漿1本で革菌試験実施:「適合」		抗白血球抗体関連検査実施 患者検体:クラスⅠ抗体陽性、クラスⅡ抗体陰性 輸血血液:クラスⅠ抗体陽性、クラスⅡ抗体陰性 患者リンパ球と輸血血液の交差試験結果:陰性	10単位	—	1本の原料血漿を製造し、確保済み。		中等度	回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年齢	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	受血者個別 NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再 献血※	同一供血者製 剤重複※	同一供血者製剤 使用※	感染症 等経過	転帰	供血者発症及の場合 の供血者保管抗体 (抗原、抗体、NAT) (投与時点)	供血者発症及の場合の供 血者の検査値
3-06169	A-06000185	2006/11/20	2006/11/30	人赤血球濃厚液(放射線照射) (採血15日目)	男	80	血液疾患	細菌感染	06/11	—	院内にて患 者血培:陰性	非溶血性副作用 関連検査 ・抗血漿タン パク質抗体検 査:陰性	同一供血番号 の血漿1本で無 菌試験実施: 「適合」	※被疑薬にさ れていないが 併用あり: ポリリンクトリ コル処理免疫グ ロブリン(06/11)		2単位	—	1本の原料血漿 を製造し、確保 済み。		重篤	不明 (患者は肺炎、敗 血症にて死 亡。死亡と 輸血製剤と の関連性な しとの担当 医の見解)		
3-06170	A-06000188	2006/11/27	2006/12/8	人血小坂濃厚液(放射線照射) (採血2日目)	男	20	血液腫瘍	細菌感染	06/11	—	院内にて患 者血培実施: Klebsiella pneumoniae および Bacillus cereusを検出	—	同一供血番号 の血漿1本で細 菌培養試験を 実施。 K.pneumoniaeお よびB.cereus検 出されず。	※被疑薬にさ れていないが 併用あり: 新鮮凍結人血 漿2単位×3本 (06/11)		10単位	—	1本の原料血漿 を製造、確保 済み。		重篤	死亡 (敗血症性 ショックにて 死亡。死亡 と本剤との 関連性不明 との担当医 の見解)		
3-06171	A-06000187	2006/11/29	2006/12/12	人血小坂濃厚液(放射線照射) (採血3日目)	男	70	血液腫瘍	細菌感染	06/11	—	院内にて患 者血培実施: Bacillus cereus検出	非溶血性副作用 関連検査 ・抗血漿タン パク質抗体検 査:抗α2-マ クログロブリン 抗体陽性 ・血漿タンパク 質欠損検査: 欠損なし	同一供血番号 の血漿1本で無 菌試験実施: 「適合」		10単位	—	1本の原料血漿 を製造し、確保 済み。		中等度	軽快			
3-06174	A-06000190	2006/12/4	2006/12/15	人赤血球濃厚液 (採血12日目)	男	80	循環器疾患、消化器 疾患	細菌感染	06/11	—	院内にて患 者血培実施: グラム陰性桿 菌を検出	非溶血性副作用 関連検査実施 予定。	同一供血番号 の血漿1本で無 菌試験実施予 定。			2単位	—	1本の原料血漿 を製造、原料血 漿は使用の有 無を調査中。		重篤	回復		
3-06178	A-06000194	2006/12/7	2006/12/22	人赤血球濃厚液(放射線照射) (採血10日目)	男	90	消化器腫瘍	細菌感染	06/11	—	院内にて患 者血培実施: Staphylococ cus aureus (MRSA)検 出。	同一供血番号 の血漿2本で無 菌試験実施予 定。				4単位	—	調査中		重篤	死亡 (敗血症、 DICにて死 亡。死亡と 輸血製剤と の関連性に ついては調 査中。)		
3-06182	A-06000198	2006/12/11	2006/12/22	人赤血球濃厚液(放射線照射) (採血12日目)	男	60	泌尿器疾患	細菌感染	06/12	—	院内にて患 者血培:陰性	非溶血性副作用 関連検査実施 予定。	同一供血番号 の血漿1本で無 菌試験実施予 定。			2単位	—	1本の原料血漿 を製造、原料血 漿は使用の有 無を調査中。		重篤	軽快		
3-06185	A-06000201	2006/12/14	2006/12/27	人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	70	血液腫瘍	細菌感染	06/12	—	院内にて患 者血培実施 中	非溶血性副作用 関連検査実施 予定。	投与中止の当 該製剤で無菌試 験実施予定。			10単位	—	1本の原料血漿 を製造し、確保 済み。		重篤	軽快		
輸血によるCMV感染報告例(疑い例を含む。)																							
3-06175	A-06000191	2006/12/5	2006/12/18	人赤血球濃厚液 新鮮凍結人血漿	男	2M	循環器疾患	CMV感染	06/10 08/10	—		IgM-CMV- Ab(-) IgG-CMV- Ab(+) CMV-DNA(+) (08/11) CMV-DNA(-) (08/11)	免疫検体3本に ついてCMV抗体 検査実施。 IgM-CMV抗体: EIA法(-) IgG-CMV抗体: EIA法(+)	なお、赤血球製剤輸血時に 白血球除去フィルターを使用。		2単位 2単位	—	1本の原料血 漿、2本の新鮮 凍結血漿、2本 の赤血球MAPを 製造、原料血漿 は全て確保済 み。	新鮮凍結血漿、 赤血球MAPは全 て医療機関へ供 給済み。	軽微	軽快		

施行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 施行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内

調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1／7, 582
H18. 3～H18. 12 ^{*2}	227, 998	24	1／9, 500
合計	569, 172	69	1／8, 248

*1 北海道センターにて NAT 実施 (ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施 (ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添のとおり

2. HEV-RNA陽性者の内訳

調査期間:2005年1月1日～2006年12月31日

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	—	—	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	—	—	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	—	—	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	—	—	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	—	—	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	—	—	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	—	—	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	—	—	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	—	—	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	—	—	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	—	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	—	—	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	—	—	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	—	—	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	—	—	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	—	—	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	—	—	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	—	—	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		過及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	—	—	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	—	—	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	—	—	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	—	—	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	—	—	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	—	—	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	—	—	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	—	—	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	—	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	—	—	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	—	—	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	—	—	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	—	—	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	—	—	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	—	—	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	—	—	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	—	—	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	—	—	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	—	—	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	—	—	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	—	—	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	—	—	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	—	—	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	—	—	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	—	—	+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	—	—	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	—	—	+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	—	—	+		調査中		無	
65	2006/11/19	48	M	58	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	—	—	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	—	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	

※1:問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了